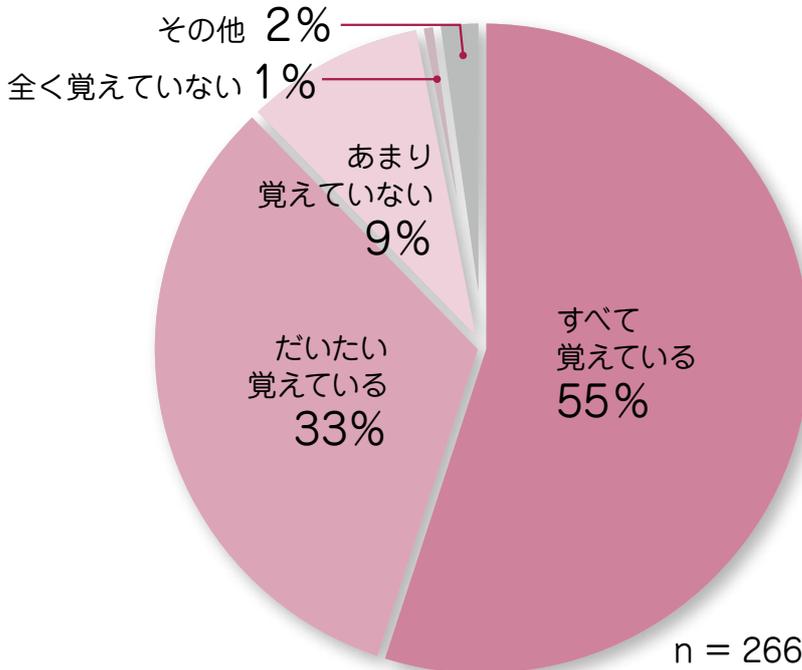
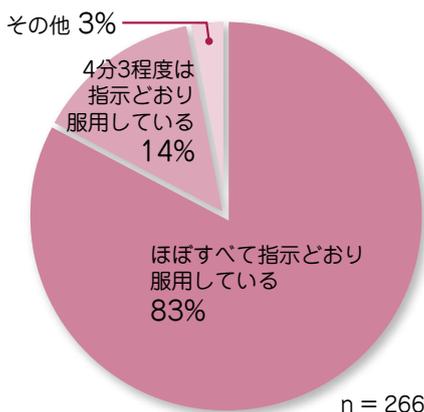


Q. 処方されている薬の名前と用法を覚えていますか？



「すべて覚えている」と「だいたい覚えている」でほぼ9割。また、用法を覚えていなくても「1日分の薬を朝・昼・夕に分けておき、ケースに入れて持ち歩く」「スマホの服薬管理アプリを使用」などの工夫で、複雑な用法に対応している方が多数いました。そのような工夫の効果でしょうか、「薬を飲み忘れることはありますか?」との質問に「ほとんど飲み忘れない」との回答が74%、「忘れるのは週に1回程度」が15%と、意外(?)に高い遵守率でした。

Q. 飲み忘れや自己判断での中止・服用量変更をせず、指示どおりに服用している薬はどのくらいですか？



前記のように、スタッフ向けのアンケートでは、「ほぼすべて指示どおり服用している患者さんは4分3程度」との予想が多く、「ほぼすべての患者さんが指示どおりに服用している」と答えたのはわずか7%でした。しかし患者さんの回答は83%が「ほぼすべて指示どおり服用している」です。やはり本アンケートに回答された患者さんは意識の高い方が多かったようです。

Q. 糖尿病以外の薬も含め、1日に何回、薬を服用していますか？

服薬アドヒアランスと関連が強いと思われる服薬回数は、1日3回の方が最も多くて34%、1日2回がほぼ同数の33%、続いて1日1回が18%、1日4回以上が15%でした。この結果を、飲み忘れの頻度とクロス集計したところ、いずれの 카테고리でも「ほとんど飲み忘れはしない」と答えた方が多数を占め、その割合は前記と同順に75%、74%、71%、79%でした。わずかな差ながら、服薬回数が多いほうがむしろ飲み忘れが少ないという結果で、本アンケートからは服薬回数と遵守率低下の関連は認められませんでした。

Q. 処方された薬が余った場合、どうしますか？(複数選択可)

患者さんが残薬をどうしているのか尋ねてみたところ、「なにかの時のためにとっておく」が29%で最も多くを占めました。大規模災害への備えとして薬を余分に手元に置いておくことが推奨されるようになりましたので、この結果は否定的にとらえるべきではないのかもしれませんが、「通院時に、病院・医院に持っていく」は7%、「薬を入手した薬局に持っていく」は6%とともに少なく、一方で18%の方が「捨ててしまう」ということ。残薬への正しい取り扱い方の周知にはまだ時間がかかりそうです。

Q. 薬が余ったときにどうすべきか、スタッフから説明を受けたことはありますか？

では、そもそも患者さんは医療スタッフから残薬の取り扱い方法の説明を受けているのでしょうか？ 結果は「受けたことがない」が73%。左ページで紹介したスタッフの回答とは、だいぶ開きがありました。

前回(12年前)との比較

12年前、服薬アドヒアランスをテーマにアンケートを実施した際の患者さんが服用している薬剤数は、糖尿病以外の薬も含めて平均2.8割でした。それが今回は本文に記したように4.1割に増えています。しかし、薬の名前と用法を覚えている人の割合は「すべて覚えている」「だいたい覚えている」の合計で、前回87%、今回88%とほとんど変化していませんでした。医療スタッフの日ごろの服薬指導の積み重ねの成果とみることもできるでしょう。

自由記述から

10錠セットはやめて14錠(2週間分)に、統一してもらいたい/「成分は変わらない」と言いながら薬が変更されることがある。高齢者は理解力が衰えるので間違いやすくなりはないか/処方された薬が有効かどうかをあまり長い時をおかず確認してほしい/いろいろな薬があり、血糖値が下がらない時にその都度、変更されるので心配/たくさん種類がある中でなぜその薬を飲んでいるかを知りたい。あまり詳しく説明してもらっておらず、今さら聞きにくい/膵臓の負担になる薬は中止してほしい/風邪薬などを飲む時、相互作用が怖いので糖尿病の薬は飲まないことが多い/薬と一緒にカスタマイズできる服薬管理アプリがほしい